

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年9月3日

【評価実施概要】

事業所番号	2274202445
法人名	医療法人財団百葉の会
事業所名	グループホーム 百葉わらしな
所在地 (電話番号)	静岡市葵区羽鳥1420-7 (電話) 0545-65-2000

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成19年5月29日

【情報提供票より】(19年5月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	6人, 非常勤 8人, 常勤換算 13.18人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	3階建ての	2階～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	270 円	おやつ 円
	または1日当たり 870円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名		
要介護3	8 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	69 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	服部クリニック・介護老人保健施設ききょうの郷・静岡リハビリテーション
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して2年目を迎えるホームである。ホームの機能と特性を十分に理解し、利用者本位のサービス提供に向けて取り組んでいる。利用者への支援を行う様々な課題や着眼点を職員が共有し、試行錯誤を繰り返しながら職員一人ひとりが努力している。家族との連絡や家族会との連携も図っているため、家族の理解や信頼も厚い。地域との関わりも、様々な情報収集を図りながら積極的に参画するように努め、イベント等も企画しながら地域に根ざした運営を行っている。管理者や職員の尊厳のケアに対する意識が高い。「我が家の離れ」としてその人らしく、あたりまえの安心できる生活の場所づくりを職員が一丸となって取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての取り組みであり、理念に基づいた取り組みを継続し、向上していく為に介護者側のゆとり(休憩等)についても視野を拡げて今後の更なる発展と活躍に期待したい。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	日常生活における「出来ること」と「出来ないこと」を独自で作成した評価シートを参考に把握している。又、ニーズを踏まえ『できること』が増えていくように本人、家族を含め全職員で情報の共有化を図る取り組みがなされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	法人内の内部監査機関や研修制度等を積極的に活用し、サービス向上に努めている。特に職員のキャリア・スキルアップは目標設定を行い実施し、研修報告等はスタッフ間の連携が図られるように報告会を行っており、地域との交流も広報や地元の方との積極的なイベントを展開しながら地域密着を目指している。行政との連携も介護保険課・高齢者福祉課・地域包括支援センターと会議を開催している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を開催し、意見交換の場を積極的に設けている。家族の訪問時には日常生活の様子を伝え、暮らしを保つ上での過ごし方の配慮や相談もなされている。利用者や家族からの相談や意見、苦情等を真摯に受け止め、それを運営に活かしていく考え方が職員全体に浸透している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	農園でのイチゴ狩りや記念祭、園児との交流、野外での誕生日会、散歩等を積極的に取り入れ、地域住民を招くなど、関わりが図れるように取り組んでいる。また、地域に根付いたホーム運営を目指し、地域の医療機関と日頃より連絡を取り合い連携に務めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『自らが受けた医療と福祉の創造』を法人理念とし、尊厳を重視した個別ケアに取り組んでいる。理念を明確に示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員、利用者出入口の見やすい位置に理念が掲示されている。「職員行動指針」の冊子を職員全てが携帯し、自らの行動を振り返り実践できるよう取り組まれ、職員も自覚している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に散歩や買い物に出かけたり、地主さんの農園での苺狩りや記念祭など、地元の職員の情報をもとに交流を深めている。地域に理解を得る為、地域開放企画(バーベキュー、生け花教室、栄養士による特別ランチ等)を積極的に実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人内研修等を積極的に行い、絶えず自らの取り組み姿勢を振り返り、運営・管理責任者を含め全ての職員が団結して取り組んでいる。外部評価の他にも、施設内での自己評価や他施設と相互評価を行い、客観的な視点で定期的な評価にも取り組んでいる。	○	職員一人ひとりが問題意識を常に持って取り組んでいる。これらを踏まえた今後の取り組みにも期待できる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表(地域住民)も交えて運営推進会議を定期的に行っている。家族会や運営推進会議(家族、市役所、民生委員等)で取り上げられた検討事項や懸念事項についての経過や報告を明確に掲げ、一つひとつ積み上げて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所(介護保険課、高齢者福祉課)との連携や2つの地域包括支援センターと地域の介護ニーズ、事業所の実情やサービスの取り組み等について報告や相談を積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時には家族に利用者の様子を伝えている。遠距離の家族には手紙や写真を送付し、家族との信頼関係を築いている。また、家族会を定期的で開催し、要望等を積極的に受け止めるようにし、それを実践している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等でそれらを検討し、希望や意向を把握するために家族が訪れた際に言葉を交わす努力をしている。出された意見や要望を検討し、できる限りその実現に向けて努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	信頼関係を築く為に、馴染みの関係を確保し継続できるように考えている。法人内の異動以外、離職者もなく、あった場合の対応(雇用する人材要件を明確にしている)等も考慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のキャリア支援(資格取得等)、スキル(介護技術、ケアプラン作成等)が向上できるように取り決めがなされている。また、研修を重ね、伝達の仕方など様々な問題意識を常に持ち、解決できる方法をあらゆる面から模索している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「わらしな探検Day」「わらしなDayランチ」など独自のイベントを開催しながら地域交流と共に各事業所との交流も取組まれている。また、関連の事業所等と学習会や交流を持つことによりサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定のある方に、併設されているデイサービスを利用しながらホームを体験できたり、ホーム利用者と一緒に食事支度を行う等、徐々に馴染んで貰える様な工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の流れが、家族と共に過ごすような雰囲気でゆつくりと時間が過ぎている雰囲気がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会議や申し送りノート、申し送り等で一人ひとりの把握に努めている。利用者が普段何気なく話す会話等から個別に把握し、家族からも情報を得るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画を作成する担当者以外でも問題点に気付くように独自の評価シート(できる・している・改善する等)を作成し、職員全員に浸透している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、利用者、家族の要望を取り入れつつ、様々な状況に対応する個別プランが計画・実行されている。また、その評価、見直しも適切に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを併設している為、看護師による健康管理や機能訓練、レクリエーション、ケアマネによる介護相談、栄養士による塩分制限の調理や試食など各専門職によるの取り組みを交え、機能性を活かした取り組みが行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の協力医療機関と連携し、往診を含めた調整を図っている。また、利用者の状態を把握してもらうためにも、家族付き添いの受診を基本としている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員間でターミナルケアについて話し合っている。また、利用者や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとって医療機関と連絡、連携を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	不穏がある場合でも、ゆとりをもって対処する等の配慮がなされ、以前の職業や得意とする分野への促し等、常に配慮している。個人情報の取り扱いも適切に行われている。また、勉強会等で職員の意識向上を図るとともに、日々のかかわり方を管理者とケアプラン作成者が相談し、実施している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活が「時間に追われない生活」として実現できるように心掛けている。散歩をしたり外の景色を眺めたり何処にでもある普通の日常生活の時間が流れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	肉と魚を選べる工夫や配膳の準備を一緒に行う等し、職員と交えて楽しく食事を摂る工夫がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽に花を浮かべ見栄えや香りを楽しめる工夫をしている。また、食事後の片付けをできるだけ行なえるように、相手の気持ちに配慮した雰囲気作りに心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一日の始まりの運動や調理、散歩や外食など様々な取り組みがなされている。一人ひとりの嗜好も把握し、充実した日々が継続できるように取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性化に繋がるように、その日の利用者の気分や体調に合わせた支援(散歩、買い物等)が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不必要な施錠は行わず、一人で外出するような場合も心地良い音楽が流れ職員がさりげなく付き添う配慮をしている。出来る限りの個別ケアが行なえるように勤務体制にも工夫がみられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急災害訓練やヘルメットの整備、地元の消防団との係わり等の働きかけを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食卓に並ぶ食材に合わせた皿等、彩りにも留意し、食欲をそそる工夫がなされている。昼食は併設のデイサービスと共有の為、量としては多いような感じを受けたが、肉か魚か選べる事を楽しみにしている利用者も居て工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階、3階と位置している為、エレベーターを除いては通常の自宅と変わらない空間が保たれている。ベランダにも気軽に出れるようになっており、外の空気や気分転換を図れる意味でも工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と撮影した写真等を居室の入口に掲示したり、使い慣れた家具等を持ち込んだりと居心地良く過ごせる工夫がなされている。		